

協同労働の仲間とともに

11月23日(土)に埼玉大学を会場に、労働者協同組合(ワーカーズコープまたは労協)と埼玉ワーカーズ・コレクティブ連合会共催の「良い仕事研究交流集会」が開かれ、ワーカーズ連合会からも約30人が参加しました。

たくさんの協同労働の現場からの発見

この会の目的は、他業種や他地域の人との交流を通じ今後の事業運営をより良いものとしていくためのヒントを提供し合うというものです。

前半は7つの事例発表があり、地域のニーズに沿って事業することが不可欠で、そのことで自身も地域も活性化していくこと、働くもの同士の意思統一には会議や研修が重要なことも再認識しました。そして、時流に左右されず長く継続できたことや働きにくさを抱えた人を多く採用できるのは協同労働だからという話からその良さも実感しました。

後半は、8つに分かれたワークショップで、人手不足、後継者不足、経営が不安定なこと、多様な人を受け入れる体制作りなどを話し合いました。視点を変えると働きたい人は世の中に多くいます。定年後の元気な人、働きにくさを抱えるが働く意志を持つ人など、潜伏している人々を掘り起こすことでの課題を解決し、働くことが楽しい、作り上げる喜びがある、などを感じてもらえる職場作りをすることでおのずと輪が広がるでしょうと報告されました。

形は違いますが、ワーカーズコープとワーカーズ・コレクティブは今後も連携してより良い仕事を作り地域を住みやすくしていくということでした。

明日からも頑張ろうと思えた良い機会となりました。余談ですが、早速この会で知り合ったアスポート



ト熊谷から、うちの事業所に見学に見え、「何か出来そうですね」と言われました。

NPO法人ワーカーズコレクティブ てとて
大野恭子

生協受託事業に思いを込めた働き方を紹介

私たちクローバーは今年度、第3次中期計画の最終年度にあたり、これまでのふり返りとこれから約3年間の計画立案の真っ最中。これから、どう動いていくべきか、課題山積みの中、事例報告もさせていただいたことで自分たちの仕事を見直す良い機会となりました。

業種の違う団体の様子や、労働者協同組合のことを知ることで課題解決のヒントになりました。特に労働者協同組合について、何もわかっていない状態でしたので興味深くお話を聞かせていただきました。

午後の分科会では、ワーカーズ・コレクティブと労働者協同組合とのお互いの違いを理解しつつ、協力していく必要性を参加者の多くが感じたのではないでしょうか。私は同じ地域で連携していくことで、さらに協同労働の輪を広めていけると思いました。有意義な時間でした。

企業組合ワーカーズ・コレクティブ クローバー
元川ひとみ

初仕事は100食のお弁当！

蓮田のお弁当やワーカーズ「食べものや」

蓮田市西新宿に生まれたお弁当屋「ワーカーズ・コレクティブ食べものや」。そもそもそのきっかけも労協からの情報でした。そんな、労協とワーカーズ・コレクティブ連合会とのつながりで生まれたお弁当屋さん、初めての仕事がこの「良い仕事研究交流集会」の昼食100食でした。いきなり100食のお弁当をどうやって作るの!?連合会に集う食の事業所が立ち上がり、レシピを教え、仕入れ作業や調理、配達のノウハウを教えてました。「食べものや」は、見事初めての仕事をやり遂げ、会場で食べた皆さんからもおしゃべりがあったのです。



「食べものや」は仲間を募集しています。 Tel 048-812-8434